

令和元年度 鯨資源調査等対策委託事業のうち鯨資源調査事業(北太平洋鯨類目視調査) 報告書

本報告書は、一般財団法人日本鯨類研究所が水産庁長官より委託された北太平洋鯨類目視調査事業(委託目視調査事業)のうち2019年5月から6月にかけて実施された鯨類目視調査について報告するものである。本調査は、北太平洋におけるミンククジラ、イワシクジラ、ニタリクジラをはじめ、シロナガスクジラやセミクジラなどの希少種を含むヒゲクジラ類を中心とした鯨類の分布状況の把握、ならびにその資源量推定のための目視情報の収集を目的としている。本調査計画は、国際捕鯨委員会(IWC)科学委員会において調査目的やその手法について審議された上で実施されている。以下に本研究が用船した調査船勇新丸および第二勇新丸の調査結果概要について報告する。

記

1. 調査海域

調査海域は、IWCのミンククジラ管理小海区(6E, 7WR)とする(図1)。第二勇新丸は6E、勇新丸は7WRの調査を行った(図1)。

2. 調査体制

水産庁長官が一般財団法人日本鯨類研究所に委託し、それに基づいて用船した以下の船舶により実施した。

勇新丸 (724トン、共同船舶株式会社所有)

第二勇新丸 (747トン、共同船舶株式会社所有)

3. 調査員

記録担当: 恒川 雅臣 (共同船舶株式会社 勇新丸)
植田 悠 (共同船舶株式会社 勇新丸)
吉村 勇 (共同船舶株式会社 第二勇新丸)
藤井 健輔 (共同船舶株式会社 第二勇新丸)

運行担当: 葛西 英則 (共同船舶株式会社 勇新丸 船長)
大越 親正 (共同船舶株式会社 第二勇新丸 船長)

4. 調査期間

勇新丸は、2019年5月10日から6月8日まで、第二勇新丸は2019年5月11日から6月26日まで目視調査を実施した。

日付	勇新丸(30日間)	日付	第二勇新丸(47日間)
5月10日	下関港出港	5月11日	塩釜港出港
5月13日	調査海域到着・調査開始	5月13日	調査海域到着・調査開始
6月4日	調査海域終了	6月14日	調査海域終了
6月8日	下関港入港	6月26日	塩釜港入港

5. 調査結果

5-1 目視調査における探索努力量

予め調査海域内に設定したジグザグ状のコース上を調査した。調査方向は、この時期の鯨の回遊方向を考慮し、原則として北側から南側へ調査を実施した。全調査期間における2隻の合計探索努力量(往復航海を含む)は3,767.8 哩、調査海域における合計探索努力量は3,038.5 哩(計画距離:3,198.3 哩、カバー率:95.0%)であった(表1)。

表1. 各海域の探索努力量(哩)

	6E	7WR	合計
調査海域(計画)	2,021.1	1,177.2	3,198.3
調査海域(努力量)	1,891.8	1,146.6	3,038.5
カバー率(%)	93.6	97.4	95.0

5-2 鯨類の発見群頭数

往復航海を含め、全調査期間で発見された鯨類は、合計 283 群 1870 頭(イルカ類含む)であり、そのうち、種が特定できたものが16種(ヒゲクジラ類5種、ハクジラ類11種)であった。ヒゲクジラ類は、ナガスクジラ、イワシクジラ、ニタリクジラ、ミンククジラ、ザトウクジラの5種が発見された(表2)。

5-3 自然標識記録(写真撮影)

本調査においては、対象鯨のザトウクジラ1個体、シャチ2個体の自然標識撮影を実施した(表3)。

5-4 バイオプシー標本の採集

本調査においては、対象鯨のナガスクジラ1個体、ミンククジラ1個体、ザトウクジラ1個体、シャチ1個体、合計4個体からバイオプシーを採取した(表3)。

5-5 衛星標識装着実験

6E海区においてナガスクジラ1個体、ミンククジラ3個体に対し衛星標識装着を試みたが至らなかった。

5-6 大型鯨類の索餌行動観察記録

本調査においては、鯨類の索餌行動は観察されなかった。

5-7 距離角度推定本実験

第二勇新丸では5月13日に予行演習、6月2日に本実験を実施し、本実験では3時間53分の間に合計136回のトライアルを実施した。勇新丸では5月13日に予行演習、5月27日に本実験を実施し、本実験では4時間25分の間に合計192回のトライアルを実施した。

6. 調査記録等の保管

全ての記録類は調査終了後、一般財団法人日本鯨類研究所資源管理部門が保管する。また、IWC 科学委員会において、本計画がオーバーサイト調査として承認されており、主要電子データの提出が義務付けられていることから、天候記録、努力量記録、目視記録、距離角度推定実験記録の各電子データを同部門より、IWC 事務局へ提出済みである。詳細な結果は、他の目視調査結果と合わせて2020年5月に開催されるIWC 科学委員会等において発表を予定している(それまでは非公開、詳細は添付英文報告資料を参照)。

表 2. 調査海域内における種別発見群頭数

鯨種/海区	往航		6E		7WR		復航		合計	
	群数	頭数	群数	頭数	群数	頭数	群数	頭数	群数	頭数
ナガスクジラ	0	0	12	21	5	7	0	0	17	28
イワシクジラ	0	0	0	0	1	2	0	0	1	2
ニタリクジラ	0	0	0	0	16	19	0	0	16	19
ミンククジラ	0	0	37	43	1	1	2	2	40	46
ミンククジラらしい	2	2	0	0	1	1	0	0	3	3
ザトウクジラ	1	1	1	1	20	28	0	0	22	30
マッコウクジラ	0	0	0	0	66	165	0	0	66	165
種不明大型鯨類	0	0	1	1	1	1	0	0	2	2

表 3. 自然標識撮影ならびにバイオプシー実験結果

鯨種	自然標識(個体数)	バイオプシー(個体数)
ナガスクジラ	-	1 (7WR)
ミンククジラ	-	1 (6E)
ザトウクジラ	1 (6E)	1 (6E)
シャチ	2 (7WR)	1 (7WR)
合計	3	4

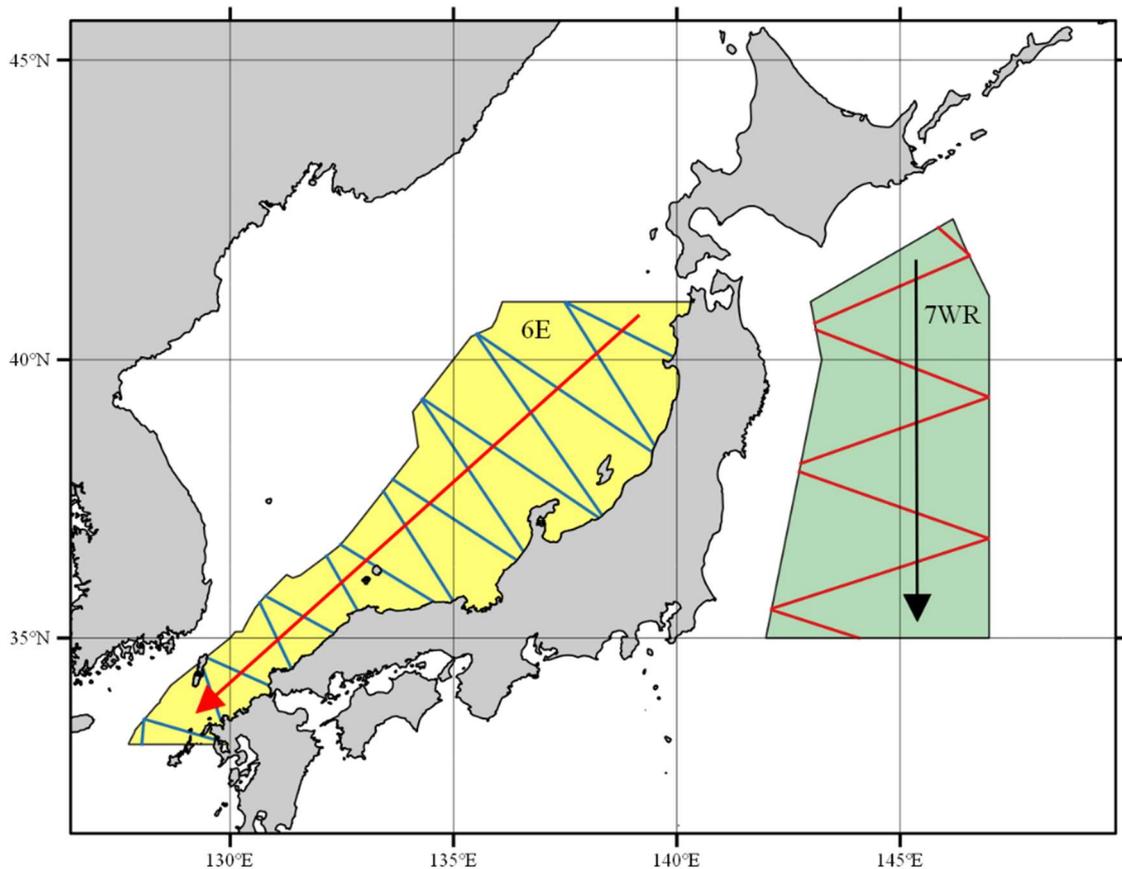


図 1. 令和元年度(2019年)の調査海域。第二勇新丸は 6E、勇新丸は 7WR の調査を行った。